レッツ工事台帳 V.8

インストールマニュアル
Terminal Service
& Citrix Presentation Server

目 次

1. インストールの前に 1
2. インストールと設定
   - 2-1.環境準備 2
   - 2-2.インストール 3
   - 2-3.起動の為のコマンド設定 4
   - 2-4.CitrixPresentationServerの設定例 5
   - 2-5.ターミナルサービスの設定例 6
   - 2-6.レッツ工事台帳機能の「プリンタ設定」を実行時のエラー回避方法 6
   - 2-7.WindowsServer2008におけるレッツ工事台帳の設定 7
3. 補足
   - 3-1.レッツ工事台帳のアップデート 8
   - 3-2.レッツ工事台帳の再インストール・バージョンアップ 8
4. トラブルシューティング 9

本マニュアルでは、ターミナルサーバーへの「レッツ工事台帳」のインストール方法と「レッツ工事台帳」を動作させる環境の設定方法についてのみ解説しております。
インストール方法の詳細手順に関しては、「レッツ工事台帳インストールマニュアル」に記載してありますので、併せてご参照下さい。

1 インストールの前に

システム要件

ターミナルサービスが動作するサーバー

サーバーが要求するRAM＋（レッツ工事台帳クライアント数×80MB）
　例）512MB＋（5クライアント×80MB）＝912MB

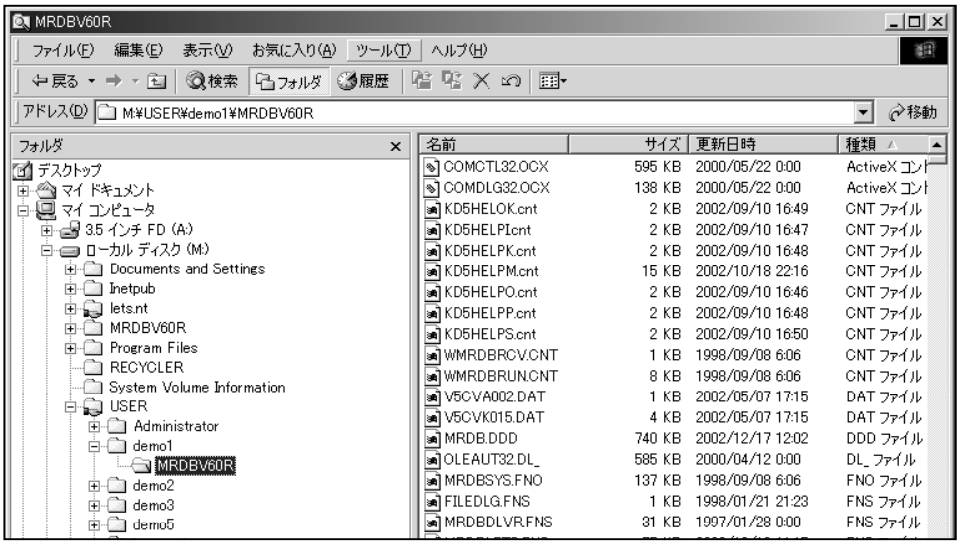
インストールの概要

レッツ工事台帳をターミナルサービスで動作させる場合、複数ユーザーのプログラムの干渉を避けるため、ユーザー数と同じ回数インストールを行う必要があります。

このインストールマニュアルでは、[demo1][demo2]の2人のユーザーがターミナルサーバー上でレッツ工事台帳を利用するものとして説明します。なお、[demo1][demo2]はターミナルサービスを利用する上でのユーザー名です。

インストール後のフォルダ構成

※ここでは、使用ドライブをMドライブと指定していますが、他ドライブでも同様の手順となります。



※WindowsServer2003上でターミナルサービスが動作しているとして説明しています。

運用上の注意事項

・同時に異なるクライアントから同一ユーザーで起動させてはいけない。
・通信速度の遅い環境においてのデータのバックアップ処理について、データをクライアント側へ保存しようとした場合の動作は保証できません。
　（ダイアルアップ接続など）

2 インストールと設定

2-1.環境準備

◆ターミナルサーバーの設定（サーバー名をLets-svとして説明します）
・ターミナルサービス及びそれに関わるサービスのインストール
・ターミナルサービスで利用するユーザーアカウントの作成
・上記アカウントにadministrators権限を付与（インストール終了後には、administrators権限を外します）
・「CitrixPresentationServer（以下CPS）」を利用する場合、CPSのインストール
・MicrosoftExcelのインストール（レッツ工事台帳Proを利用する場合）
※ターミナルサーバーにExcelをインストールする際は、Excelのライセンスに注意して下さい。　詳しくは、MicrosoftのHPをご参照下さい。

◆データベースサーバーの設定（サーバー名をData-svとして説明します）
・データフォルダ「LETS.NT」の作成
（作成方法は「インストールマニュアルLAN対応版」をご参照ください。）

◆セットアップ用コマンドスクリプトの作成
・レッツ工事台帳のインストールをするにあたり、ネットワークドライブを２つ、仮想ドライブを１つ割り当てる必要があります。
その作業を自動化するためのコマンドスクリプトを作成します。
・以下に例を示します。環境に合わせてサーバー名・ドライブ名を変更してください。

以下コマンドサンプル保存フォルダ　CD-ROM¥Documents¥TSsample¥

```
@Echo Off
rem ネットワークドライブの設定
net use X: /delete
net use X: ¥¥Lets-sv¥USER
rem 各ユーザーのドライブを割り当てる(プログラム)
subst Y: /D
subst Y: X:¥%Username%
rem ネットワークドライブの割り当て(会社データ用)
net use S: /delete
net use S: ¥¥Data-sv¥LETS.NT
```

・任意の名前（例:LETSSETUP.CMD）をつけ、適当な場所に保存します。
（例：Mドライブ直下、次手順で作成するUSERフォルダ直下）

・ここで指定したドライブはセットアップにおいて必要です。
以下の解説では、上記のドライブ名を使用して解説しておりますので、別のドライブ名を使用した場合は読み替えてください。

2-2.ターミナルサーバーへのレッツ工事台帳のインストール

ターミナルサーバー（Lets-sv)での作業
administrator権限のユーザーでログオンします
（一時的にユーザーにadministrator権限を付与します）

(1) 「M:¥USER」 フォルダを作成します。

(2) 上記で設定した「USER」フォルダに共有をかけます。
レッツ工事台帳使用ユーザーの「フルコントロール」が「許可」になるよう、アクセス許可を設定します。
「共有」タブと「セキュリティ」タブで設定を確認してください。

(3) 共有フォルダ「USER」の中に、ユーザー名と同名のフォルダを作成します。

(4)「demo1」ユーザーでサーバーにログオンします。

(5)準備段階で作成した「LETSSETUP.CMD」を実行します。

(6)マイコンピュータを確認すると、「S」「X」「Y」の３つのドライブが作成されています。「Y」が「切断されたネットワークドライブ」となっている場合がありますが、問題ありません。

(7)レッツ工事台帳をインストールします。
LAN版インストールマニュアルの手順に従い、インストールを行います。
データ用ネットワークドライブを「S:」とします。→

レッツ工事台帳プログラムのインストール先ドライブを「Y:」とします。
(MRDB実行専用システムのセットアップ時に選択)

手順に従い、インストールを完了させると、「Y」ドライブに“MRDBV60R”フォルダが作成されます。

また「M:¥Windows¥System32」フォルダに「MRDBRUN2.MIF」ファイルが作られます。

この「MRDBRUN2.MIF」ファイルを、「Y:¥MRDBV60R」フォルダに**移動**します。
ログオフします。

(8)demo2でログオンし、(5)から(7)までの作業を行います。
※この作業をユーザーの数だけ繰り返します。

(9)インストールが終わりましたら、利用するユーザー（demo1,demo2)の administrators権限をはずします。

2-3.起動のためのコマンド設定

ターミナルサーバー上でレッツ工事台帳を起動する為には、コマンドで適切なドライブをセットする必要があります。よって、レッツ工事台帳は下記に示すWindowsコマンドスクリプトで起動させます。コマンドスクリプトファイルは、M:¥USERフォルダの中に保存します。

下記２ファイルのサンプルは、レッツ工事台帳のプログラムCD-ROMに保存してあります。
保存フォルダ　CD-ROM¥Documents¥TSsample¥

・レッツ工事台帳起動用コマンド（MRDBRUN.CMD）の作成

```
@Echo Off
Title レッツ工事台帳起動中．．．

rem ネットワークドライブの設定
    net use X: /delete
    net use X: ¥¥Lets-sv¥USER

rem 各ユーザーのドライブを割り当てる(プログラム)
    subst Y: /D
    subst Y: X:¥%Username%

rem ネットワークドライブの割り当て(会社データ用)
    net use S: /delete
    net use S: ¥¥Data-sv¥LETS.NT

rem ヘルプファイルのコピー
    copy  Y:¥MRDBV60R¥KD*.chm %temp%

rem レッツ工事台帳の起動
    start Y:¥MRDBV60R¥LetsV8.exe
```

・ファイル回復起動用コマンド（MRDBREC.CMD）の作成

```
@Echo Off
rem ネットワークドライブの設定
net use X: /delete
net use X: ¥¥Lets-sv¥USER
rem 各ユーザーのドライブを割り当てる(プログラム)
subst Y: /D
subst Y: X:¥%Username%
rem ネットワークドライブの割り当て(会社データ用)
net use S: /delete
net use S: ¥¥Data-sv¥LETS.NT
rem ファイル回復の起動
start Y:¥MRDBV60R¥WMRDBRCV.EXE Y:¥MRDBV60R¥MRDB.PRJ
```

注意

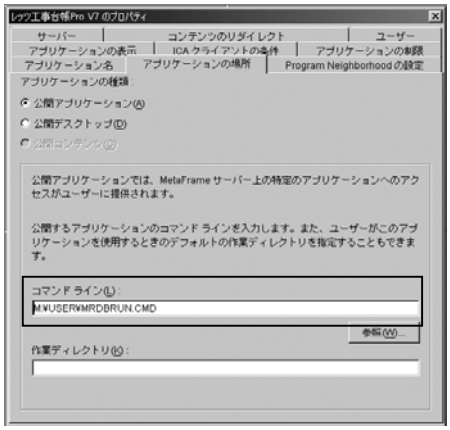
インストーラによって作成されるデスクトップ上のアイコンとスタートメニュー内のメニューで起動することはできません。

2-4.CitrixPresentationServerの設定例（サーバ側の設定）　CPS利用の場合のみ

・公開アプリケーションの設定

公開アプリケーションのコマンドラインは
右図のように設定します。

M:¥USER¥MRDBRUN.CMD



同様に、以下のコマンドラインを設定します。

M:¥USER¥MRDBREC.CMD

Citrix Program Neighborhoodのショートカットキーの設定　CPS利用の場合のみ

ショートカットキーの設定を、レッツ工事台帳で使用しているショートカットキーと重複しないように設定します。
下記設定例を参考にしてください。

レッツ工事台帳で使用済みのショートカットキー

Shift+F2	Ctrl+F1	Ctrl+Shift+F8
Shift+F3	Ctrl+F2	Ctrl+Shift+F11
Shift+F4	Ctrl+F3	Ctrl+Shift+F12
Shift+F5	Ctrl+F4	
Shift+F6	Ctrl+F5	
Shift+F7	Ctrl+F6	
Shift+F8	Ctrl+F8	
Shift+F12	Ctrl+F11	
	Ctrl+F12	

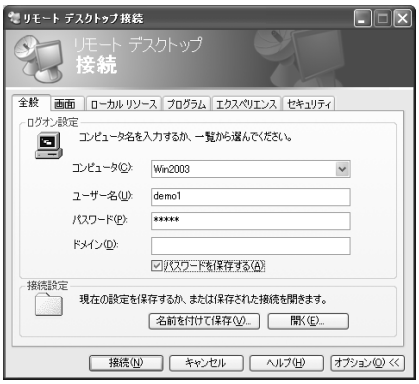
2-5.ターミナルサービスの設定例（クライアント側の設定）

ﾀｰﾐﾅﾙｻｰﾋﾞｽ利用の場合のみ

WindowsXPの場合

1. スタートボタンからすべてのプログラム＿アクセサリ＿通信の中のリモートデスクトップ接続を選択します。

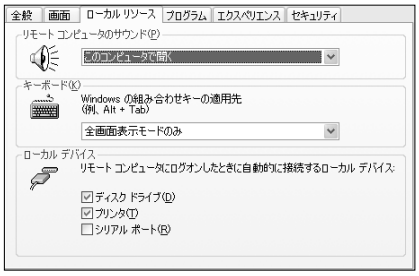
2. オプションをクリックし、各種設定をします。



[全般]
コンピュータ
サーバーの名前、あるいはIPアドレスを指定します。

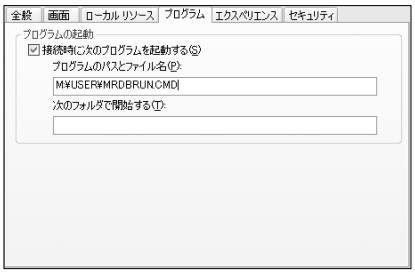
ユーザー名、パスワード
サーバーに登録した、ユーザー名とパスワードを指定します。

[ローカルリソース]
ローカルデバイスのディスクドライブ、プリンタにチェックをします。



[プログラム]
□接続時に次のプログラムを起動するにチェックをします。

プログラムのパスとファイル名の欄にサーバーに作ったレッツ工事台帳起動コマンドをフルパスで記述します。



[全般]タブで「名前を付けて保存」をします。

詳細な設定、またはXP以前のWindowsについては、Windowsのヘルプをご参照下さい。

2-6.「プリンタ設定」を実行したときにエラーが発生する現象の回避方法

※事前準備
ターミナルサーバー機のWindowsフォルダにあるexplorer.exeをコピーし、explorer2.exeを作成しておきます。

<作業>
CD-ROM内に保存されておりますプリンタ設定用ファイルを
M:¥USER¥demo1¥MRDBV60Rフォルダの中に保存して下さい。

※レッツ工事台帳利用ユーザー全てのMRDBV60Rフォルダに保存して下さい。
セットアップ環境に合わせてプリンタ設定用ファイルの内容を変更して下さい。ファイル名は変更しないで下さい。

プリンタ設定用ファイル　CD-ROM¥Documents¥TSsample¥printersetup.ini

2-7.WindowsServer2008におけるレッツ工事台帳の設定

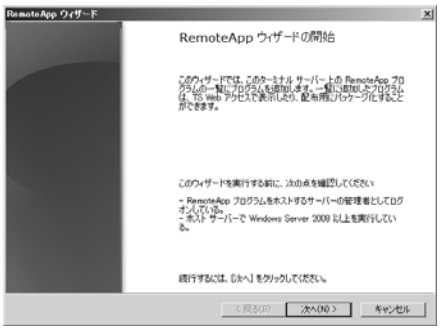
WindowsServer2008ではセキュリティ強化により、ターミナルサービスで
動作するプログラムを許可させる必要があります。
そのため、レッツ工事台帳用コマンドスクリプトファイルの起動を許可させる
作業を必要とします。

(1) ターミナルサーバーにadministrator権限のあるユーザーでログインします。

(2) 管理ツール→ターミナルサービス→TS RemoteAppマネージャを起動します。

(3) メニューバー__操作→Remote Appプログラムの追加をクリックします。

(4) プログラム追加ウィザードが開始されますので、ウィザードを進めて下さい。



(5) レッツ工事台帳用コマンドスクリプトファイルを選択して下さい。

[参照]よりレッツ工事台帳用コマンド
スクリプトファイルを選択して下さい。

(6) ウィザードを完了させます。

ウィザードを終了するとTS Remote App
マネージャ基本画面にファイルが追加され
ます。

3 補足

3-1.レッツ工事台帳のアップデート

ターミナルサーバーにレッツ工事台帳利用可能ユーザー(demo1)でログオンし、
作業を行います。
作業を行うユーザーには、あらかじめadministrators権限を付与しておきます。

(1)M:¥USER¥demo1¥MRDBV60Rフォルダの中にある“MRDBRUN2.MIF”ファイルを
M:¥Windows¥System32フォルダに移動します。

(2)「LETSSETUP.CMD」を実行します。

(3)レッツ工事台帳アップデートパッチを実行し、指示に従い完了させます。

(4)System32フォルダにある“MRDBRUN2.MIF”ファイルをM:¥USER¥demo1¥MRDBV60R
フォルダに移動させます。
※インストールは、任意の1クライアントで行って下さい。他のクライアント
は工事台帳起動時に自動更新されます。

■重要
安全の為、必ずデータのバックアップをとってから行ってください。

3-2.レッツ工事台帳の再インストール・バージョンアップ

ターミナルサーバーにレッツ工事台帳利用可能ユーザー(demo1)でログオンし、
作業を行います。
作業を行うユーザーには、あらかじめadministrators権限を付与しておきます。

(1)M:¥USER¥demo1¥MRDBV60Rフォルダの中にある“MRDBRUN2.MIF”ファイルを
M:¥Windows¥System32フォルダに移動します。

(2)「LETSSETUP.CMD」を実行します。

(3)レッツ工事台帳のCDをいれます。
すでにレッツ工事台帳がインストールされている場合、自動的に再インスト
ール・バージョンアップが選択されます。

(4)レッツ工事台帳のインストール終了後にSystem32フォルダにある
“MRDBRUN2.MIF”ファイルをM:¥USER¥demo1¥MRDBV60Rに移動させます。

4 トラブルシューティング

※本マニュアルは、WindowsServer2003及び、CPSにおけるトラブル対処法の
一部を紹介しております。

1 エラーメッセージが出て 起動しない

(例) エラーメッセージ
＊「表　○○○○.mdbが占有されています」
＊「リカバリファイルが占有されています」

<対応>
クライアントでファイル回復を実行して下さい。

※ファイル回復を実行できない
1. サーバーにセッションが残っている
2. ファイル回復用コマンドが間違ってる
CPSをご利用の場合、ファイル回復を公開アプリケーションに
設定して下さい。

以上の原因が考えられます。

2 拠点のプリンタで印刷できない

<対応>
ターミナルサーバーに拠点で使用するプリンタのドライバが
インストールされているか確認して下さい。

※CPSをご利用の場合、プリンタのオートクリエイト機能が設定されて
いるか確認して下さい。

●ターミナルサービスをご利用の場合
クライアントでターミナル接続の設定を確認して下さい。
P6の[ローカルリソース]＿プリンタのチェックをONにして下さい。

●CPSをご利用の場合
プリンタのオートクリエイト機能が設定されていません。
オートクリエイト機能を設定して下さい。

3 レッツ工事台帳の画面がフリーズしてしまった

＜対応＞
ターミナルサーバー上からレッツ工事台帳用ユーザーをログオフさせて下さい。

●ターミナルサービスをご利用の場合
1. ターミナルサービスマネージャを開きます。
2. 画面左側でユーザーセッションが動いているサーバーをクリックします。
3. 「ユーザー」タブもしくは、「セッション」タブを開きます。
4. 該当のユーザーセッションを右クリックして「リセット」をします。

●CPSをご利用の場合
Citrix Program Neighborhoodにてサーバーよりログオフをして下さい。

※上記の方法で直らない場合、
またCitrix Program Neighborhoodが見つからない場合

「Citrix管理コンソール」から該当ユーザーのセッションをリセット
して下さい。